



# うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第14号

発行日：平成13年3月31日

編集発行：魚津埋没林博物館

印刷：魚津印刷(株)

## 富山湾の冬の風物“竜巻”



黒雲から海面へ伸びる竜巻。冬の富山湾では竜巻がよく見られます。竜巻とはいっても、北米などで大きな被害が出るようなものに比べるとはるかに規模が小さく、上陸することはほとんどありません。条件がよければ次々と竜巻ができては消え、同時に2本、3本、あるいはそれ以上現れることもあります。時には右の写真のように折れ曲がったひねくれものも見られます。生き物のようにうごめく竜巻を見ていると、冬の海岸の寒さもしばらく忘れてしまいます。(2001年1月撮影)



## ふれあい学習会から

学芸員 石須 秀知

平成12年度、魚津埋没林博物館では、土曜日の学校休業日を中心に6回のふれあい学習会を開催しました。昨年度までは、自然観察を中心とした内容でしたが、今年度からは観察だけでなく、自然の中から素材を取って食べる、作るなどの体験ができるような内容を工夫しました。ここで、1年間の学習会の中からいくつかを取り上げ振り返ってみたいと思います。

4月には「食べられる野草、毒のある野草」と題し、市内の松倉城跡へ出かけました。



これは食べられるかな？

現地では食べられる植物や、それらと間違えやすい毒のある植物の見分け方、採集マナーなどを実物に触れながら学びました。そして、食べられる植物を実際に採集し、博物館に持ち帰って調理・試食してもらいました。食べられる植物といえば、多くの人はタラの芽やフキなどよく知られた山菜を想像すると思います。しかし、この学習会では、カキドオシやオオアキギリ、シャク、イワガラミ、コシアブラなど、山菜としてあまりなじみのない植物を中心に取り上げました。「え、食べられるの？」と半信半疑の参加者も、てんぷらやゴマ和えなどを試食して、それら独特の味や香りに納得してくれたようです。この回の主なねらいの一つは、タラノキやウドなど一部の山菜に人気が集中して壊滅的な状態にあることを知ってもらい、もっと身近で豊富に生えている植物が意外なおいしさを持つ

ていることを発見してもらうことでした。

9月には「野草茶を作って飲もう」と題して、さまざまな野草や薬草でお茶を作って試飲しました。野草茶として利用される代表的な植物に



いろいろな材料が集まりました

は、ドクダミ、オオバコ、ゲンノショウコ、ヨモギ、ササなどがあり、どれも野外でよく見られ手に入れやすいものです。しかし本格的にやろうとすれば、採集、乾燥から煎じ方まで時間と手間がかかり、一日の学習会では間に合いません。そこで今回は、手軽に楽しむため電子レンジを利用しました。電子レンジは大量に乾燥させるには適しませんが、1～2回分程度なら短時間で乾燥することができます。乾燥した材料を揉み碎き、急須に入れて熱湯を注げば即席の野草茶が出来上がります。また、ササなどの硬い材料は細かく切ってからフライパンで空煎りし、さらにすり鉢で砕いて用いました。どの材料も独特の風味で、そのままでも、番茶などとブレンドしても楽しめます。中でもササは、色も香りもよく参加者に好評でした。

10月には「野山を歩き、つるでつくる」を開催し、野外でのつる植物の観察・採集とそれらを使ってのかごづくりを体験しました。午前中は野外でつる集め、午後からは博物館で工作です。野外では、どの参加者も夢中でつるを集めていました。しかし、つるがからみついているほかの植物を傷めずに採集するのは難しく、木

の枝を折ってしまうなどの問題もありました。午後には、採集したつるや博物館に植えてあるシダレヤナギの枝などを使って、かご編みの体験です。参加者の中にはつる工作の経験者もいましたが、ほとんどが初めての挑戦です。しかし一度コツを覚えればさほど難しくなく、2時間ほどで1個作品を仕上げ、2個目に取りかかる参加者もありました。また、時間内に作品が仕上がらなかった参加者も、後日仕上がったものを持参して見せてくれたり、別途自分でつるを採集に行き新たな作品を作って写真をくれたりと、その後の交流がありました。



かご編みに熱中



できあがった作品

11月は「紅葉を見て残す」として、市内の片貝川上流へ出かけ紅葉する植物の観察や落ち葉拾いを楽しみ、拾った落ち葉を利用したハガキ作りなどを体験しました。拾った落ち葉をその日のうちに乾燥させて貼り付ける方法について悩みましたが、アイロンを使うと意外とうまくいくことが分かりました。葉に手早くアイロンを掛けるとシワも伸び、パリッと乾燥して色もよく残ります。ハガキなどの台紙への貼り付けは、葉を接着剤で台紙に直接貼ろうとすると、

せっかくの葉が傷んだり、貼り直しができないなど問題があります。そこでまたアイロンの活躍です。アイロンで貼れる障子紙をハガキ大に切り、その接着面上に葉を並べ、薄く透けた和紙を被せてアイロンを掛けます。失敗しても、もう一度アイロンを当てれば簡単にはがせ、何度でもやり直せます。葉の貼り付けがうまくいけば、それをハガキの台紙に糊付けして、素敵な紅葉の便りができあがりです。この方法を応用して、大きな台紙で絵画風に葉を並べた作品を作った参加者もありました。



色づいた葉をアイロンで



こんなハガキができました

どの行事でも、最初は「なんだか難しそう」と尻込みをした参加者も、実際に体験してみればそれほど難しいこともなく楽しめたようです。指導する側も、開催前には「うまく分かってもらえるだろうか」などいろいろな迷いがありましたが、参加者から好評を得ることができほっとしています。このように初めての試みの中でさまざまな良い点や問題点、次回に役立つアイデアなどが分かってきました。この経験を活かし、来年度以降の学習会を充実させていきたいと思います。

## シリーズ

## 埋没林の仲間たち ⑬

## アカマツ(マツ科)

アカマツは、丘陵地帯の尾根など乾燥した場所を中心に多く見られます。樹皮が黒っぽいクロマツに対して樹皮が赤みを帯びるためアカマツの名前があります。また、クロマツより葉が柔らかく優しげな印象があるため別名メマツともいいます。

アカマツは、春に伸びた新しい枝の基部付近に多数の雄花、先端付近に2～数個の雌花をつけます。雄花は黄色く、風にのせて大量の花粉を飛ばします。雌花は赤紫色を帯び、受粉すると翌年に熟して球果(松ぼっくり)になります。熟した球果は乾燥すると鱗片が開き、薄い翼のある種子が風に飛びます。

\* \* \*



アカマツの雄花と前年の球果

現在魚津市内では、アカマツは丘陵地帯の尾根などに多数生育しています。

魚津埋没林では、1930年頃の調査で多数のアカマツの種実が、また、1989年の調査ではアカマツの属するマツ属の花粉が出土しています。

## お知らせ

## ●平成13年度の行事予定

## ☆企画展示

## 蜃気楼写真展

7月1日～8月15日

## 自然界のらせん・うずまき・ねじれ

8月16日～10月31日

## 魚津ナチュラルギャラリーⅡ

1月2日～3月31日

## ☆ふれあい学習会

4月28日(土) この草、食べられる？

5月26日(土) 興味津々蜃気楼

7月14日(土) 片貝川・まるごと見て歩き

9月22日(土) 野草のチャチャ茶！

10月27日(土) 自然からの便り もみじで絵葉書

11月24日(土) つるつるつくる

## ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)・・・510円 ・小中学生・・・250円
- 交通 ・JR北陸本線 魚津駅 } 下車1.5km (タクシー・・・5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } (徒歩・・・25分)
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

## 特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765)22-1049

ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>  
e-mail [nekkolnd@city.uozu.toyama.jp](mailto:nekkolnd@city.uozu.toyama.jp)